

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371200649		
法人名	株式会社ユニマツトそよ風		
事業所名	名古屋南ヶアセンターそよ風(東)		
所在地	愛知県名古屋市南区白雲町6		
自己評価作成日	平成25年2月5日	評価結果市町村受理日	平成25年5月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	平成25年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地の一角の静かな環境の中にあり、笠寺観音や公園など自然にも恵まれている。『共に支えあう』を理念に、職員は入居者様の暮らしを支え、入居者同士も関わり合いを持って暮らせるよう支援しています。入居者様の希望に応じ、散歩や買物、外食、また、個別に行きたい所に出掛けて頂いたりしています。入浴も毎日して頂けます。地域の行事に参加したりし、地域とのつながりも大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族からの評価も高く、特に、職員に対する評価(明るい、親切、家族的など)があり、「ともに支え合う」の理念の実践が行われている事が感じられる。入居者の思いや希望に対して、職員が共有し、支援の具体的な方法について検討し、具体的な支援につなげている。個別の支援実績表をつくり、日々の暮らしの中で、どれだけ出来ているか、適切なかが把握できるよう工夫がある。又運営推進会議への家族の出席もよく、意見交換、希望の取入れなどができている。災害対策なども取組み、訓練も実際の状況に合わせた取り組み、備蓄などの充実、地域との連携も取り組んでいる。地域行事への参加や、交流も積極的に行い、入居者の顔なじみ、散歩時での交流、面会時での制約をなくし自由にできるようにするなど、工夫がある。個別の対応を重視する姿勢があり、個々の入居者にとって何をするべき、何ができるか、又入居者全体として何ができるか(作品の出品、地域行事への参加、地域との交流、施設行事など)行事をどうしたら楽しく、安全にできるかに配慮がある。全体としてバランスのとれた支援があり、今後とも充実した支援が期待できる施設と言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を作り、それを事務所、フロア、玄関に掲示し、実践につなげている。	“共に支え合う”という理念を職員が共有できるよう、ホーム内の目に付く各所に掲示している。理念の実践として、日々の関わりの中では入居者が孤立しないように入居者同士又は、職員と一緒に希望を聞きながら様々な事(作品作り、おやつ作りなど)に取り組むよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板も隣りの家に届けている。盆踊り、祭りなどにも参加している。近所のスーパー、コンビニ、喫茶店など利用し、顔なじみになっている。	町内会加入。盆踊り・秋祭りなど、地域行事に参加し、日常の散歩時には、近隣住民と挨拶を交わし、立ち話をする事もある。運動会の練習の見学に行き、園児・児童と触れ合う機会もある。又、秋に行う区役所の作品展にユニット毎に1点出品している。近隣の幼稚園、小学校(総合学習)とのふれあい、交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	直接は活かしていないが、中学生の職場体験の受け入れ等で、認知症の人の理解、支援の方法を知ってもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。利用者の様子を報告したり、質疑応答を行っている。頂いた意見はケアに活かしている。家族同士の意見交換も行っている。	運営推進会議では、事業所の取り組みや行事報告の他、様々な意見交換がされている。入居者家族の意見として、主治医の往診・歯科医の診療代の支払い方法の変更の要望があり、希望に沿うように変更した。開催日の工夫(奇数月第2日曜日)を行い、なるべく出席しやすい日としている。	地域代表、地域団体などのメンバーの出席への取り組みが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	支援センターの方に運営推進会議に出席して頂き、事業所の近況報告や支援センターでの取り組みについて情報交換を行っている。	運営推進会議にて、いきいき支援センター担当者に事業所の現状について報告している。又、10mの津波を想定した区の避難訓練に、入居者と共に参加している。議事録の郵送など情報共有をしている。	市の担当者との連携を深めるよう期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束をしてはいけないことを認識している。玄関は安全を考え施錠しています。やむを得ず行うときは、家族に説明し同意書を頂いています。	マニュアルを職員間で回覧し、「拘束をしない」を念頭に置き日々の支援に努めている。家族の要望によりベッド柵を使用した際は、同意書及び、時間帯の表を記録し、出来るだけ身体拘束をしないですむような支援の方法について検討するよう努めている。	今後、年間研修計画の中に身体拘束について事例検討等、学ぶ機会を作り、どんな事が身体拘束にあたるのかを職員間で認識を深める事が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	資料などを回覧し学ぶ機会を設けている。虐待が見逃されることのないよう注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々で学んでいる。実際に成年後見制度を活用されている利用者もおられ、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約共にご家族との十分な話し合いの上行っている。入居時には職員が家族と契約書や重要事項説明書の読み合わせを行い、説明、補足をさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口について説明している。玄関にご意見箱を設置させて頂いている。	面会時や3ヶ月に1度の面談時に家族からの要望・意見の聞き取りを行っている。職員の顔と氏名が一致しないという意見があり、分かりやすいようボードを作成し、家族の意見を運営に反映している。苦情箱の設置、毎月の「そよ風通信」をユニットごとに発行し、状況、行事など、情報共有を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度部署会議を行っています。必要に応じ面談を行い、把握できるよう努めている。	ユニット毎に月1回、会議を開催している。職員からの意見・提案はユニットリーダー又は、管理者が随時聞き取り運営に反映できるよう努めている。そのほか新人職員にたいしては、3ヶ月トレーナーをつけ、指導・相談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康状態の把握、休日の確保、有給が取れる等、心身共に意欲を欠くことがないように配慮するよう努めている。残業が多くならないよう業務改善したりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は入社3ヶ月間指導職員をつけキャリアトレーニングを行っている。社内の勉強会や不定期だが施設外の研修に参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋南東部グループホーム交流会に参加し、他施設の様子を伺ったりし、交流する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が要望などを伝えられるよう、耳を傾けたり日々の生活、かかわりの中で、安心できるような環境作りができるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に家族の困っている事や要望を伺っている。その後は家族面談を行い、お気持ちや要望などをお聞きし、理解に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた段階で、必要とされている支援を見極め、他サービスも含めた対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の無理のない範囲で、一緒に家事などの作業をするようにしている。また、利用者から教えて頂くという姿勢も心がけている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告をさせて頂いている。家族会を設け、本人、家族共に楽しく過ごせるようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店に出掛けるなどし、ご本人の希望があれば、出来るだけ関係が継続できるよう努めている。	月1回の個別レクリエーションの際に個々の馴染みの関係継続の支援を行っている。釣り好きの入居者には釣堀へ同行する支援も行っている。友人・知人が来訪した場合は、落ち着いた話せる雰囲気作り、自由に、時間の制限もなく面談できる支援を行い、家族・友人への年賀状・手紙を出す支援も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	複数の利用者と職員とで作業をしたり会話をしたりし、利用者どうし良好な関係が築けるよう支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も関係を断ち切らないお付き合いをする姿勢は持ち合わせているが、現状では継続的な関わりを必要としている利用者、家族はいない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から、困っている事、要望を聞き出したり、表情などからも思いや意向をくみ取れるように努めている。	職員は担当入居者の日々の様子や会話から入居者の思いや希望の把握に努め、連絡ファイルに記録し、職員間で共有している。衣類の入れ替え・読書希望・買い物等の意向を介護計画に反映し、日常の支援や個別レク(入居者担当や、職員全員)にて支援するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や、随時 家族からお聞きしたり、本人からも会話の中で聞き出したりし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、申し送りなどで、一日の過ごし方、心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、評価及びプランの見直しを行っている。家族や本人から伺った要望は、ケアプランに反映させて頂いている。	モニタリング参加者は計画作成者・担当職員当日勤務職員で行っている。3ヶ月に1度、原案を家族・入居者に提示し承認を得ている。日々の記録の中にケアプランと一緒に綴じ、すべての職員がプランの目標を把握しそれに向けて日々取り組めるよう意識付けしている。フローで利用者ごとのケアプランがみられる。利用者ごとに実績表をつくり記録するなど工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、また特に普段と違った様子を介護記録に記入し、情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状は未だ他のサービスを利用したいというご利用者の意向はなく、他のサービスを利用する必要性のある利用者もいないが、意向や必要性があれば、他のサービスも活用できるように柔軟な対応をしていく姿勢は持ち合わせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉会館や近所の喫茶店、コンビニ、六の市を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係は良好。2週間に1度往診があり、各居室にて行われている。場合により、家族と相談し、外来受診に行かれることもある。	協力医(救急対応の病院)は2週間に1回往診を行い、緊急時は24時間携帯連絡が可能となっている。歯科は必要な入居者に一週間に1回往診がある。かかりつけ医への受診は家族が対応している。服薬の管理は、リーダー・管理者が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設デイサービス看護士職員に支援してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医は近隣にあり、入院時も面会に行くなどし、情報交換をしている。早期退院への理解もあり、退院時、退院後にも指導、相談、協力体制は整っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には家族へセンターの方針を説明して同意を得ている。状態が変化した時には、家族、医療関係と話し合いを行い、支援に取り組んでいる。	入居契約時に家族・入居者と話し合いを行って方針を決めている。重度化し医療行為が必要になった場合はその都度方針について話し合い、職員・担当医・家族で連携を密にするよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル、連絡先、手順など、わかりやすい場所に掲示し、職員の対応の統一に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。夜間対応の避難訓練も行っている。施設内には非常用持ち出しとして、食料、備品を常備している。	津波警報発令時想定で近隣の高台の公園に避難訓練を行った。火災訓練は昼間想定2回、夜間想定1回(夜間実施)1ユニットに一人なので、役割分担をし通報・避難訓練を実施した。又、常備薬や、食料・水・おむつ等1週間分の備蓄があり、担架コンロの備えもある。	近隣住民や地域団体などの緊急時連携の充実が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩という事を忘れず、一人一人の人格を尊重できるような関わりかたに努めている。	記録は“様”会話の中では“さん”付けである。関わりの中で、慣れからくる幼児言葉や尊厳に配慮のない対応があった場合は気付いた職員が管理者へ報告し管理者より注意、指導している。又、居室内からの施錠も可能で、入室時の声掛けは厳守している。失禁時などは、さりげない誘導をしている。夜間の巡回時では、鍵のかかった居室の場合、退出時に、しめるなど対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	質問の仕方を工夫し、自分の意見や希望を表せるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限りその日の会話から、希望に添えるように支援はしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着用在適切でない時はアドバイスさせて頂いたり、その方にあった化粧品やマニキュアなどのおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、食器拭きなどその方の力が発揮できるよう、職員も一緒にしながら支援している。	献立作りは栄養士が行い日曜日は入居者と相談し献立を決め、職員が調理を行っている。季節食として、正月のおせち・丑の日のうなぎ・七夕のそうめん等。手作りおやつはホットケーキ・五平餅などを入居者と一緒に作っている。又、朝食は入居者それぞれの起床時に合わせて対応している。食事の準備、片づけなど入居者ができることは共にしている。「お弁当持ち」外出などもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量は記録に残している。栄養バランスに関しては管理栄養士が献立を考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの促し、介助をしている。口腔内の状態に応じた口腔衛生用品も取り入れ、清潔保持に努めている。義歯を使用されている方は、就寝前に入れ歯洗浄剤にて洗浄させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄リズムの把握をしている。定期的にトイレ誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援している。	夜間・昼間の個々の状況に合った時間に誘導し、車椅子利用の入居者は時間で誘導する事によって、失禁が減少している。排泄の自立が出来ている入居者については、排泄チェックは行っていない。又、夜間は3時間置きに巡視を実施、驚かせないように、ゆっくり状態確認など配慮しながらの支援がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便の確認をしている。水分を多く取る、ヨーグルトを食べる、体操、腹部マッサージを行うなど、自然排便が促せるようつとめている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は決まっているが、毎日入浴できる中で、本人の希望も聞いている。入浴剤などでリラックスして頂けるように支援している。	入浴は15時半から2時間で体調や希望を聞き入浴順を決定している。入浴をしたがらない入居者には声掛けに工夫をし誘導している。又、温度差が無い様、脱衣所には、暖房・浴室はシャワーで暖め温度差の無い様に配慮している。入浴表でのチェック、感染予防への足ふきタオルの交換、裏返しなど工夫がある。入浴後の水分補給は、ポカリ、牛乳、お茶、サイダー(買い置き)など好みの物で行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯、起床時間を設けず、その方のペースで生活できるよう配慮している。状況に応じ、日中でも休息して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食事ごとに薬のケースを分け、段階的にチェックし、服薬の支援を行っている。薬について理解する為の勉強会も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、歌、おやつ作り、喫茶店に行くなど、その方が楽しめることを日々の生活に取り入れれたり、個別レクで行ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物は随時希望者に出掛けて頂き、月1回の個別レクでは本人の希望を聞き、出掛けたい所に出掛けられるよう支援している。	気候の良い日は月1回、水族館・寺・イチゴ狩りなどの遠方への外出はボランティア協力で行っている。個別レクリエーションでの外出は買い物・喫茶店・美容院など入居者の希望に沿った支援を実施している。又、車椅子利用の入居者に対応できるように、法人所有のリフト車を使用している。農業センターなどへ、「お弁当持ち外出」をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>多額の金額は事務所に保管している。自己管理希望のご利用者には家族様の理解を得て所持し、使用できるよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご家族の受け入れ状況に配慮させて頂きながら、希望時には連絡が取れるよう努めている。年賀状など家族とやりとりできるよう支援している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>花やカレンダーなどで季節感を感じて頂けるよう工夫をしている。まぶしい陽がさす時は、レースのカーテンをしめたり、テレビや音楽の音量にも配慮している。</p>	<p>フロアは毎朝、入居者と共に清掃を行い、温度・湿度計を使用し、室温、採光の管理を行っている。玄関には、消毒薬とマスクが常備され、感染対策に配慮している。また、職員の氏名と顔写真のボードの掲示があり、面会に来る家族に分かりやすいよう工夫がある。大き目の日替わりカレンダー、出品した作品の飾りつけなどある。おやつ時間などには、カセットで好みの音楽を流すなどしている。席は自由になっている(入居者間での問題あるときは職員が間に座るなど工夫している)。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下つきあたりソファが置いてあり、お一人で過ごしたり、気の合う人同士過ごせるようになっている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご本人や家族と相談しながら、テレビや馴染みのあるタンス、テーブル、小物、写真などを持ち込んで頂き、過ごしやすい空間作り心がけている。</p>	<p>居室は、毎朝入居者と共に清掃を行う。1週間に1回シーツ交換・布団乾燥を行っている。居室内は、こたつ・カーテン・のれん・テレビ等入居前に使用していた物や、好みの物を持ち込む事が可能である。又、自分の居室が認識しやすいように入り口に飾り付けがある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室にはわかりやすい大きさを表札をつけている。トイレも色々な言葉で表示させて頂いている。</p>		

(別紙4(2))

事業所名 名古屋南ケアセンターそよ風

## 目標達成計画

作成日: 平成 25年 5 月 7 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間帯の災害に対し家族が不安を持たれている。新しい職員も増え、緊急時の対応に不安がある。	どの職員も緊急時に対応できる。近隣の協力体制を整える。	夜間想定、火災の避難訓練を職員の入れ替わりもあることから、半年に1度 行う。近隣住民に挨拶し、火災時の協力依頼をしておく。	6～12ヶ月
2	12	職員の入れ替わりがよくある。退職する職員が多い事を家族も不安に思われている。	各職員が長く勤められるよう職場環境を整える。	各職員がストレスを溜めることの無いよう、不満や思いを聞く機会を定期的に設ける。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。